Green Reborn プロジェクト～都市と地方を環境教育で結ぶ～

甲野　毅　教授
（家政学部　ライフデザイン学科）

【目的】

全国で耕作放棄地が増加し、人の手により管理されるべき農地が放棄され、その結果、里地・里山が荒廃している。原因の一つの地方の人口減少がある。この問題は農産物の生産高の減少による食料自給率の低下につながるだけでなく、管理放棄された農地が野生動物の住処に、さらに獣害問題の発生源となる可能性を帯びる。一方で子供の成長にとって自然環境またはそこでの体験は重要な役割があるとされている。だが、現在の子供たちは自然と触れ合う機会が減少しており、自然との距離が開いている状態にあると言える。幼少期に自然体験が不足することは様々なデメリットがあるが、その一つに環境問題などへの関心の低下につながることも指摘されている。そこでこれらの問題を解決するために、私達が実施することは、耕作放棄地に手を入れ、または耕作放棄地を活用した葡萄畑などにおいて農産物を栽培し管理することとし、第一の活動とする。また、自然や文化資源が溢れる地域の魅力を伝えること、関係人口の増加につながるような都市住民に向けた観光ツアーを企画・実践すること、都市に住む子供達に自然と触れ合う環境教育の機会を提供することを、第二の活動とする。

【活動内容】

第一の北杜市での活動では、小淵沢町の耕作放棄地や醸造用葡萄畑で学生が地域住民の支援を受けながら野菜や果実などの農産物を栽培または管理した。具体的には、サツマイモや醸造用ブドウを栽培し、収穫したブドウはワイナリーに持ち込み、指導を受けながらその製造を体験し、2026 年にはフルボトルの赤ワインが出来る予定である。また関係人口の増加を射程に入れた北杜市への観光ツアーを、「大妻女子大学・北杜市協働事業」として環境教育学研究室と北杜市役所が協働で企画し、実際にその集客に努めて、10 月に都市に居住する若年女性に向けた観光ツアープログラムを実践した。

第二の都市での活動では、都市に居住する自然体験の希薄な子供達を対象に、森林をテーマにした環境教育プログラムを実施した。プログラムは行政主催の環境イベントに他団体と一緒に参加する形式、環境教育学研究室だけで企画・実践する形式に分かれた。前者は立川市と千代田区の主催する環境啓発イベント、地域連携推進センターが主催する夏休み小学生講座で、人工林をテーマとして環境教育を行った。後者は学園祭での北杜市の自然環境と奄美大島で栽培された国産コーヒーをテーマとした、地域の自然環境を体感する自然体験教育であった。

令和 7 年度　活動内容

日程	内容　※1 は北杜市での活動　※2 は都市活動での活動
5～6 月	北杜市内のフィールドワーク　地域住民などからのレクチャー※1 耕作放棄地・醸造用ブドウ畑での苗の植付け及び管理（ハーブ・サツマイモ・ブドウ）※1
5～7 月	北杜市観光ツアーの考案※1 環境教育プログラムの企画　　地域連携推進センター主催・夏休み小学生講座参加※2
7 月	学生による北杜市観光プランの提案（オンライン）※1
8～9 月	耕作放棄地・醸造用ブドウの管理（土寄せ・獣害ネットかけ）※1 醸造用ブドウの収穫※1
10 月	学生による耕作放棄地でのハーブ・サツマイモ・醸造用ブドウの収穫※1 北杜市観光ツアーの実施※1・2
10 月	大妻女子大学学園祭参加 環境教育プログラム実施※2 3 年生：子ども向け自然体験教育　4 年生：北杜市観光 PR および国産コーヒー啓蒙活動
11 月	千代田区・立川市環境フェア―参加　環境教育プログラム実施※2
11～3 月	大妻女子大×北杜高校、オンラインでつなぐ地元愛の輪を開催※2ワイン名称、ラベル作り※2 地域連携プロジェクトブクレット作り※2　耕作放棄地・醸造用ブドウ畑　跡片付け※1






千代田区・立川市環境イベント 学生が考えた環境教育プログラムの実施



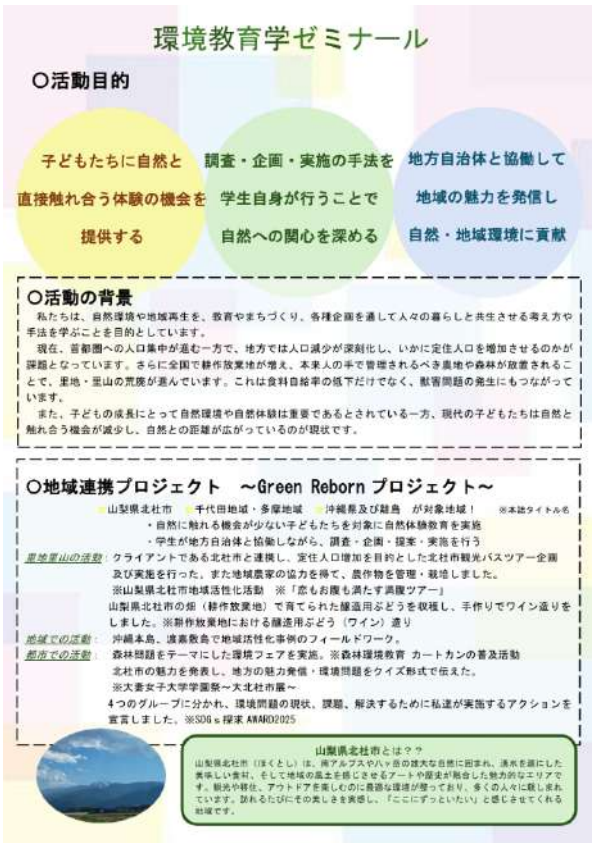



大妻女子大学園祭で北杜市の現状を伝える　自然体験教育プログラムで企画内容を考案し実施






醸造用葡萄畑で学生が地域住民の支援を受けながら野菜や果実などの農産物を栽培または管理





地域連携プロジェクトの内容を紹介したブックレット２・３頁